

*Kyoto SF festival 2008*

# 眉村 卓インタビュー

*An interview with Taku Mayumura*

デビューから『司政官 全短編』まで  
(1961-2008)

## 最初に

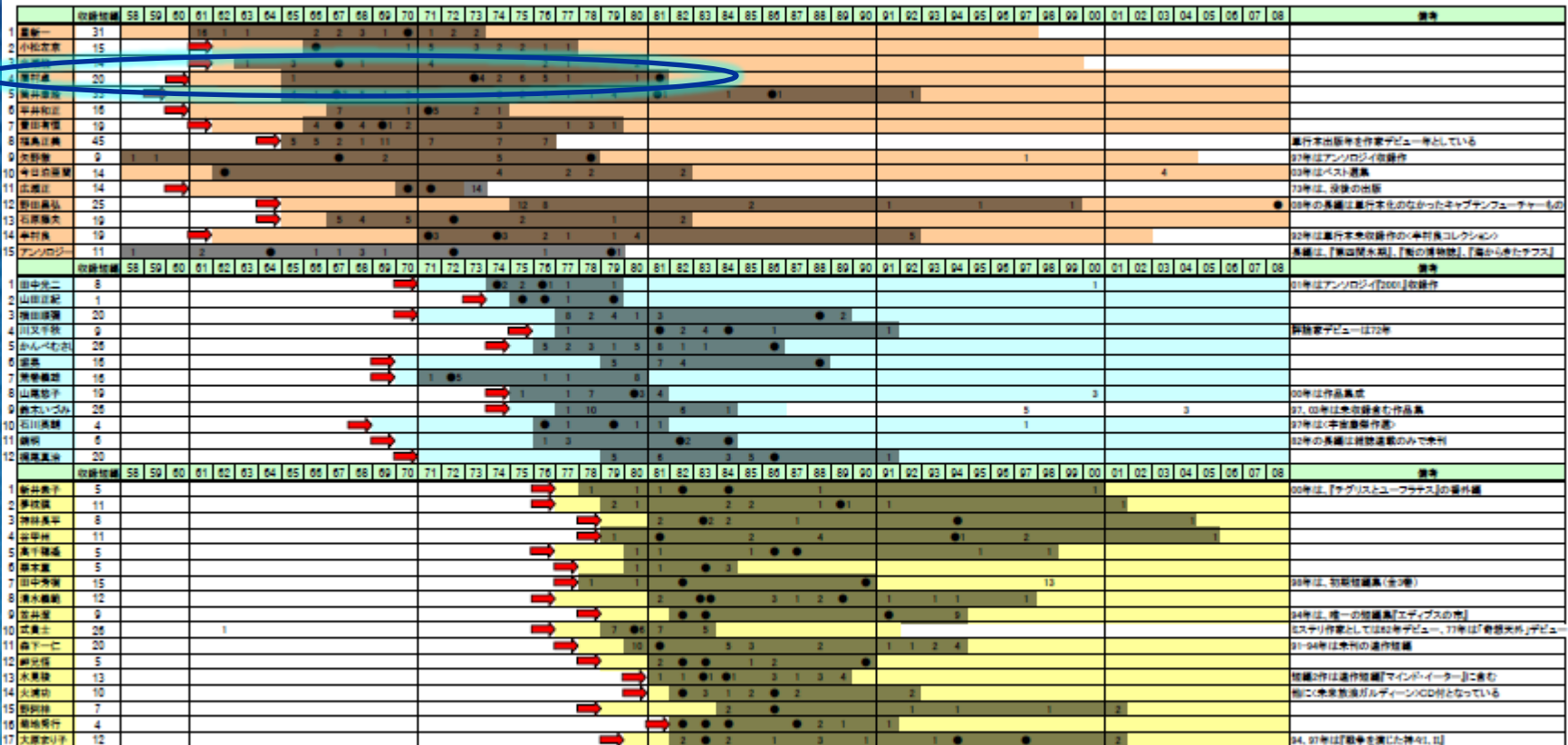
- 日下版「日本SF全集」での位置付け
- 出版点数の推移(1963～2008)

## 時代を追って

- サラリーマン時代からジュヴナイルの頃
- ディスクジョッキーから『引き潮のとき』開始
- 大減速期から『司政官 全短編』まで
- 2008年における司政官の意義

## 日下版「日本SF全集」での位置付け

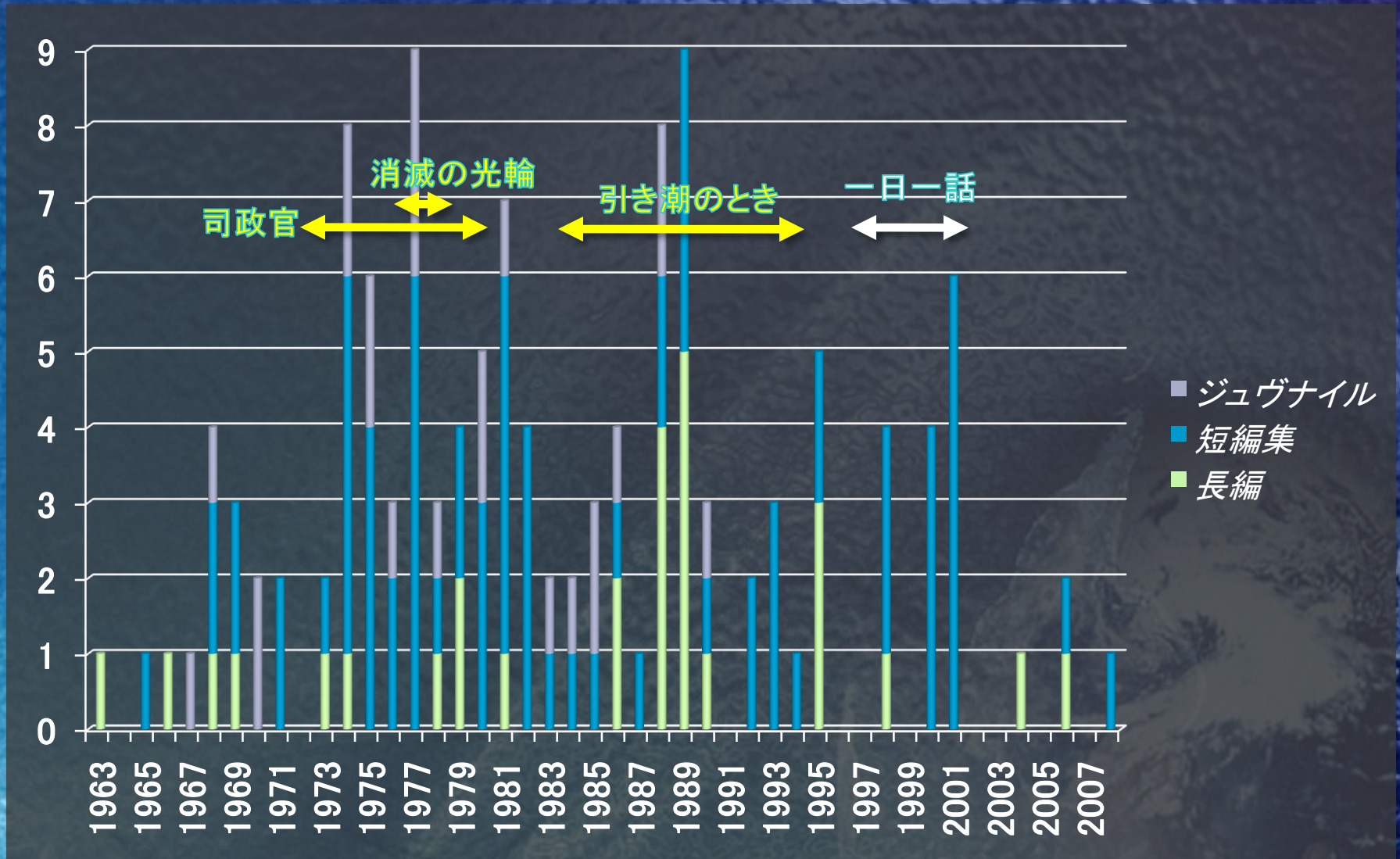
日本SF全集の収録作分布(長編・連作、短編の年度別分布)



● デビューの年を示す。編者や評論家・研究者の都合は小説発表年とする。以降、没年までハッチングされている部分を活動期間としているが、実際に執筆していない年も含まれる。  
 ● 収録されている長編、連作短編の発表年を示す。数字は収録された短編の数を示す。どの年の作品から採られたかの目安となる。各短編の雑誌発表年ではなく、単行本発表年であることに注意。ただし、単行本収録作は、その短編の発表年となっている。  
 ● 全集としてフォールスしている範囲を示す。活動期間が長くても、SFとして注目されない時期は除かれていることがある。

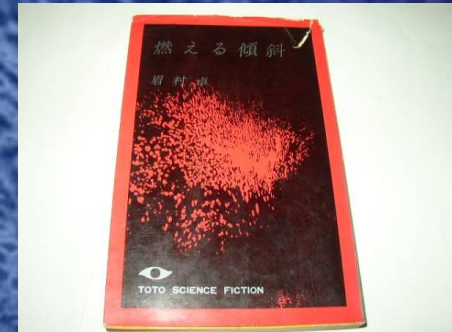
注)ここに記載されたデータは編者の調査範囲のものであるため、その真は編者が負うものです。

# 出版点数の推移(1963~2008)



## 1934年⇒1970年

- 1934 大阪市に生まれる
- 1950 高校入学 俳句部に所属
- 1953 大阪大学入学 柔道部に所属
- 1959 大阪窯業耐火煉瓦入社(現ヨータイ)
- 1960 「宇宙塵」入会
- 1961 第1回日本SFコンテスト第2席「下級アイデアマン」
- 1963 『燃える傾斜』発表 会社を辞めコピーライターに(29歳)
- 1965 短編集『準B級市民』作家専業に
- 1966 本格SF長編『幻影の構成』
- 1967 最初のジュヴナイル『なぞの転校生』
- 1970 『まぼろしのペンフレンド』



## サラリーマン時代からジュヴナイルの頃1

### ● サラリーマンの時代

「血イ、お呉れ」(1988)の昭和30年代  
振り棄てるべき暗い過去

後の異世界もの作品にたびたび登場する  
「もし、そのまま勤めていたら…」

## サラリーマン時代からジュヴナイルの頃2

- 「宇宙塵」入会、「NULL」(1960～)のころ

きっかけ

柴野拓美の印象

NULLの筒井康隆、小松左京との出会い

## サラリーマン時代からジュヴナイルの頃3

### ● 第1回SFマガジンコンテスト(1961)第2席

第1席 地球エゴイズム(山田好夫)

第3席 時間砲(豊田有恒)

努力賞 地には平和を(小松左京)

入選で何が変わったか

福島正実との出会い



## サラリーマン時代からジュヴナイルの頃4

- 東都書房から処女長編

当時の編集者の考え

広瀬正、筒井康隆の原稿を没にしたのは

## サラリーマン時代からジュヴナイルの頃5

### ● ジュヴナイルの制約

多くの作家は制約を問題にする

→ 日常に近いため、書くのは楽だった

『なぞの転校生』(1967)の頃

## 1971年⇒1983年

- 1971 最初の司政官もの「炎と花びら」  
深夜放送チャチャ・ヤングでパーソナリティ
- 1974 短編集『司政官』  
福島正実との共著『飢餓列島』
- 1976 『ねらわれた学園』  
『消滅の光輪』連載開始～1978
- 1978 最初の異世界もの長編『ぬばたまの…』
- 1979 第7回泉鏡花文学賞、第10回星雲賞『消滅の光輪』
- 1980 司政官短編集『長い暁』
- 1981 『ねらわれた学園』映画化(大林宣彦監督)  
『不定期エスパー』連載開始～1990
- 1983 『引き潮のとき』連載開始～1995



# ディスクジョッキーから『引き潮のとき』開始1

- はじめての深夜番組 (25:30~29:00)

(火) 馬場章夫

(水) 西岡たかし→高石ともや

(木) 加川良 & 金森幸助

(金) 眉村卓

(土) 杉田二郎→谷村新司

(日) 上田彰

なぜショートショートだったのか

## ディスクジョッキーから『引き潮のとき』開始2

- 最初の司政官「炎と花びら」(1971)

多忙な中での執筆

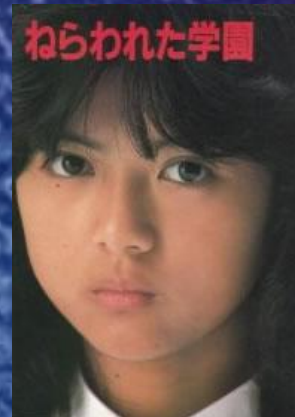
まだ感情的な司政官  
(しかし基本的な設定は全てできている)

当時の構想との違い

## ディスクジョッキーから『引き潮のとき』開始3

- 最初の映画化のころ(1981)

大林監督の『ねらわれた学園』



前後の状況と当時のSF界

「レイダース失われた櫃」「機動戦士ガンダム」、  
翌年「ブレードランナー」

## ディスクジョッキーから『引き潮のとき』開始4

- 制約を外した大長編の連載開始、

『消滅の光輪』 → 1976～2年8か月(1650枚)

『不定期エスパー』 → 1981～9年2か月(4400枚)

『引き潮のとき』 → 1983～12年(5000枚)

『カルタゴの運命』 → 1990～7年9か月(1700枚)

## 1986年⇒2008年

- 1986 半自伝的長編『夕焼けの回転木馬』  
『時空の旅人』、『迷宮物語』アニメ化
- 1990 『不定期エスパー』(全8巻)完結  
大阪芸術大学文芸学科教授～客員教授(現在)
- 1995 第27回星雲賞『引き潮のとき』(全5巻)完結
- 1997 『日課・一日3枚以上』～1778話(2002)
- 1998 「歴史読本」連載『カルタゴの運命』完結
- 2004 『妻に捧げた1778話』
- 2006 8年ぶりの長編『いいかげんワールド』  
「エイヤン」(2002)含む『新・異世界分岐点』
- 2008 『司政官 全短編』、『消滅の光輪』復刊





# 大減速期から『司政官 全短編』まで1

- 大阪芸術大学教授就任  
1990客員→1992正教授  
～定年を経て現在も客員教授



その経緯と教え子

『七時間目のUFO研究』、『ハルさん』の藤野恵美ら

現在の仕事

## 大減速期から『司政官 全短編』まで2

- 日本SF作家クラブ退会(1992)

当時の状況

いま話せること

## 大減速期から『司政官 全短編』まで3

### ● 大減速期(1997)

時代から遅れることを実感していた…  
(意識的に大長編の連載をしてきた)

その頃の思いは

## 大減速期から『司政官 全短編』まで4

### ●『日課・一日3枚以上』

→1,778編の5年間

→10,000枚に及ぶショートショートを集積

その間とその後を合わせた10年

10年後の未来に生きるということ

自分が過去からやって来て現代にいる  
—いわば未来滞在者になっていた



# 大減速期から『司政官 全短編』まで5

## ●「エイヤん」(2002)の意味

復帰第1作

書かれた少年時代の記憶



## 2008年における司政官の意義1

### ネットの最近の感想から(司政官、消滅の光輪)

- ゲームとビルドゥングスロマンという二つの性質が相俟って、この小説は傑作となった
- 惑星の全住民を他の惑星に待避させるという設定や先住者とは異なる種族という組み合わせに凄みがあり、その凄みが高次元なものでしかないと言っているところがやっぱり凄い
- 三回で終わらせる予定の物語がこんなにも長大な物語になった理由もわかる気がする。傑作かどうかという以前に金字塔と呼びたい作品だ。こんなにも豊饒な物語を描いてしまうなんて、なんて凄いのだろう

凄いという印象

## 2008年における司政官の意義2

### ●なぜ今司政官なのか

#### 単行本/文庫の系譜

司政官(1974/80→75/82→92/x→2008)

消滅の光輪(1979→81→2000→2008)

引き潮のとき(1995→2006未完)

過去の文庫化時点での反響、今回との違い



## 2008年における司政官の意義3

- なぜいつまでもインサイダーSF論なのか
- 司政官の続編は書かれるのか

無能な司政官  
ふまじめな司政官  
老人の司政官



● 創元推理文庫あとがきから

行け行け。  
ずんずんずんずんずん、  
あっちを覗きこっちで喋り、  
で進んでゆけ。

*Kyoto SF festival 2008*

*Thank you*